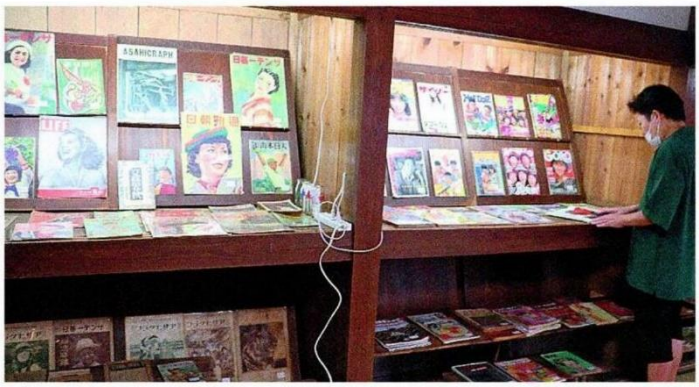
年　　組　名前：

古雑誌博物館オープン

大月　時代映す300冊並ぶ

数々の往年の雑誌が並ぶ「古雑誌博物館」が15日、大月市にオープンした。運営するのは、明治中期から現在まで約1万冊の古雑誌を所有する、東京都武蔵野市のたどころのりおさん(43)。たどころさんは「(古雑誌は)発刊当時の空気感や人々の暮らしが分かる、興味深くて貴重なもの。面白さを知ってほしい」と話す。　〈小林諒一〉



さまざまな分野の古雑誌が並ぶ展示コーナー　＝大月市富浜町鳥沢

たどころさんが古雑誌に魅了されたのは約20年前。祖父母の家で女性芸能人を掲載した古雑誌を見て、「昔の姿がとても美しくて衝撃的だった」ことがきっかけ。映像制作の仕事の傍ら、インターネットや古書店などを通じて収集してきた。

博物館は、大月市富浜町鳥沢の国道20号沿いにある空き家を改修。たどころさんが厳選した約300冊が並ぶ。ジャンルは政治経済やスポーツ、ファッション、グラビア、漫画、音楽など多様だ。

終戦直後に街中に英語で記した看板が増えてきた様子を紹介した「アサヒグラフ」(1945年10月発行)や、新紙幣の発行政策を解説した「ダイヤモンド」(47年5月発行)などを展示。日本初の雑誌とされる、世界情勢をつづった「西洋雑誌」のレプリカもある。

戦前から終戦直後にかけての雑誌の表紙を並べたコーナーでは、戦況の悪化に伴って表紙の絵が簡素になり、紙質も悪くてページ数が少なくなる様子が分かる。

たどころさんは「古雑誌は時代の空気感や思想をリアルに感じ取れる」と力説。「古雑誌は新聞と同様、後世に残すべき紙の記録媒体だ。ぜひ手に取って読んでほしい」と話している。

土日を中心に開館する予定。開館時間は午前11時～午後6時。入館料は500円。問い合わせはメール（old.magazine.museum@gmail.com）。

（2023 年 4 月 16 日付 山梨日日新聞 16 面）

問1

大月市に、古雑誌博物館がオープンしました。運営者の、たどころのりおさんは、何冊の古雑誌を保有し、何冊を展示させましたか。

・保有数：……冊　　・展示数：……冊

問2

古雑誌博物館には、どのようなジャンルの本が展示してありますか。

……

問3

戦前から戦後直後の雑誌の特徴を、答えてください。

……

……

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.